

国際交流・社会貢献等の概要

●国際交流活動の推進に向けて

○海外プログラム

大学における国際交流活動の推進に向けては、国際ビジネス学科を設置して以来様々な取り組みを実践してきた。その1つに授業科目として「グローバルコミュニケーション」を新たに設け、国際社会に対応できる人材の育成を図っている。これは本学が提供する海外プログラム（国際交流プログラム、海外研修、スポーツマネジメント研修等）や個人的な観光旅行で外国に渡航した際、臆することなく英語でコミュニケーションを取れる能力を養い、そして将来的に仕事で英語を使用することに対する希望と自信を持ってもらうことを目指す講義となっている。単なる語学学習ではなく、国際的な感覚、視野の広がりをも身に付けてもらい、実践として海外研修等への参加意識も高めている。そのため新たに規程も整備し、一定要件のもと海外研修の参加費補助制度も設けた。この授業は伊勢崎キャンパス、高崎キャンパスの両キャンパスで開講されており、受講する学生たちも定着し、実際に海外研修に参加する学生も増えていたが、コロナ禍の影響で渡航研修は中断となっている。そこで昨年度から中止している海外研修の代替として、遠隔で行われる語学研修プログラムを安価で参加希望者に提供している。

○シンガポール・南洋理工大学とのオンライン国際交流

昨年度は本学と提携するシンガポールにある南洋理工大学（NTU）学生とオンラインでの国際文化交流を実施した。交流内容として、お互いの地域や大学生活をはじめ様々なテーマで意見交換するというもので、全5回に分けてお互いの大学や地域、文化の紹介を行い、本学の学生は特別講義で受講した「絵手紙」の紹介と実際の手ほどきを画面越しに行った。両大学の学生共、本企画への満足度が高く、引き続き交流を継続していく予定である。

○スポーツにおける留学生受け入れ

さらにはここ数年スポーツにおいても海外からの留学生を積極的に受け入れている。人数はそれほど多くないものの、アジア圏以外にも留学生が定期的に留学している。競技ではバスケットボール、サッカーが主であり、継続的に留学生を迎えている。こうしたスポーツを通しての定期的な留学生の受け入れにより、海外関係機関との連携協定締結なども期待できる。

●大学間連携

従来から本学を含む群馬県内5大学（高崎商科大学、関東学園大学、共愛学園前橋国際大学、高崎健康福祉大学）による合同の企業研究会を開催していたが、ここでの大学間交流を基にして、より強固な連携協力関係を結ぶべく、平成27年度から5大学と株式会社スパ

ンによる学生の就職支援を共同して行っていくための協定を締結している。これにより各大学での就職情報等を共有でき、人事交流なども盛んに行われることになり、学生たちが効率的な就職活動を行うため、様々な形で支援できるよう対応が図られている。今年度は従来の5大学に育英大学を合わせた6大学として7月23日に共愛学園前橋国際大学で開催された23卒合同会社説明会の後援を大学として行った。

●産学官連携

○包括連携協定等の締結

上武大学では平成26年度から平成28年度にかけて、地域社会の発展と人材育成への寄与を目的として、教育、文化、福祉、健康、地域産業、国際交流などの分野において連携、協力するための協定を群馬県内各自治体と結んだ。まず平成27年2月に伊勢崎市との協定をとりまとめ、続いて玉村町、富岡市、渋川市、藤岡市の大学近隣5市町村との包括協定を順次結んでいる。協定締結以前から協力関係にあった上武大学と近隣市町村であるが、これにより様々な分野で一層の協力・連携関係が築かれることになっている。具体的には各市町村やその教育委員会が主宰して開催する市民・町民向けのスポーツイベントの運営補助や競技補助業務や、各市町村が運営する施設で玉村町陸上教室などの文化事業の開催などがある。なお高崎市とは部分的協定ではあるが、災害時における施設利用に関する協定を取り交わし、高崎キャンパスのある新町地区の防災に関して、高崎市と連携しながらその対応策の検討を行うこととなっている。

○文部科学省主催「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」への参画

標記補助事業には群馬県も積極的に関わり、県が主導する形で群馬県への就業率向上を目的として、共愛学園前橋大学が核となり、本学と高崎商科大学、明治学院大学が協力する参加校として連携し、平成27年度補助事業の採択を受けた。ここには群馬県をはじめとして、高崎市、前橋市、伊勢崎市、富岡市の自治体も加わり取り組みを推進している。大学卒業後の群馬県内への就業率上昇を目標に掲げ、大学、自治体そして県内の企業も積極的に協力していく体制が整い、本学をはじめとする各大学も協力して具体的な取り組みを検討・推進している。

○群馬地域大学連携協議会への参画による地域貢献

群馬県が主体となり、県内の自治体が抱える問題・課題解決に大学が積極的に加わり、ともに地域貢献事業を実践していくための組織。本学もこの協議会に参画しており、その中で渋川市の案件として、総合型スポーツクラブの運営協力や、スポーツイベントなどの競技補助などの業務において協力している。

○高大連携の推進

群馬県内の高等学校のうち、吉井高校、高崎東高校、榛名高校、高崎高等特別支援学校の4校とは高大連携協定を締結している。内容として高等学校におけるカリキュラム支援や、テーマ学習の共同研究・発表、共同のボランティア活動、キャリア教育支援、などである。コロナ禍で停止している状況ではあるが、榛名高校の新生オリエンテーションでは毎年絵手紙体験を行っており、本学から担当の職員を派遣し、講習と実技指導を実施している。

●社会貢献活動と地域連携

○本学高崎キャンパスがある高崎市新町において、地元の商店連盟・商工会議所と協定を締結し、新町地区の活性化のために、学生達も協力しながら様々な活動を行っている。具体的には新町祭り及び新町商工祭への企画参画と運営補助、などがありその他にも学生たちはいろいろなボランティア活動により、町の運営に協力している。また富岡製糸場と同様の歴史的価値のある建造物、新町紡績所の世界遺産追加登録に向けて、「よみがえれ！新町紡績所の会」とも包括協定を締結し、大学と町を挙げて、文化的活動を推進している。なおこうした学生たちの積極的なボランティア活動を大学としても評価しており、「社会貢献実践」という新たな授業科目を導入し、学生のボランティア活動に対して単位も付与している。これらを取りまとめる組織として、大学にはボランティアセンターも設置している。去年度の活動実績として令和3年冬季、高崎キャンパスの側を流れる烏川に飛来する白鳥保護を目的とした河川敷の清掃活動に「社会貢献実践」受講者とボランティアサークルの学生が参加し、参加者の大きな袋がいっぱいになるほどのゴミを回収した。

新町商工会議所との連携で、本年8月16日に3年ぶりに行われた新町ふるさと祭り「花火大会・灯籠流し」ではボランティアサークルの学生が、会場の警備・誘導を行い、多くの人で賑わった祭りを裏方として支えた。

○『大学生×伊勢崎市 コラボレーション企画』に参画

今年度の8月から9月にかけて伊勢崎キャンパスで学ぶスポーツ健康マネジメント学科の学生が、地域（伊勢崎市）の魅力や大学の魅力について発信を行うため、伊勢崎市役所に赴き、市の広報担当の方と意見交換などを行った。参加学生が本企画を通して作成した記事が広報いせさきに掲載される予定である。

○救急救命士コースの活動

平成31年4月よりビジネス情報学部（伊勢崎キャンパス）に新たに救急救命士コースが開設された。このコースの活動拠点ともなる救急救命センターには実際の救護活動に利用される様々な機械器具や設備があり、救急車も配備されている。現時点では学生たちだけで救護活動などを展開することは難しいが、救急救命士の資格を持った教員が常日頃指導を行うことで、補助活動等は実践できるようになっている。令和3年11月3日に行われた

群馬マラソン 2021 では学生 88 名（柔道整復師コースの学生 5 名）が救護ボランティアとして大会の運営に係わり、内 40 名が AED 隊、41 名が移動救護隊、7 名が入場チェックの役割を果たし、大会の安全・安心に大きな貢献を果たした。

○スポーツトレーナー活動

本学の柔道整復師コースの学生達で構成されているトレーナーサークルは、大学との協定を締結している自治体が企画・運営するスポーツ事業に積極的に参画しており、学びを実践できる場としても機能させている。具体的には以下に挙げる競技会等において、独自のブースを設置し、参加者たちの競技前後の身体的ケアを行っている。令和 4 年 5 月 22 日に板倉町で行われた 2022 全日本大学トライアスロン選抜大会では、学生 11 名と柔道整復師コース西川彰准教授がアスリートのためのケアブースを設営した。落車による負傷者の対応やゴール後の選手に対するマッサージやアイシング、テーピングなどのケアを実施した。競技終了（午後 1 時）までに学生選手および一般選手合わせて約 70 名の利用があり、本学学生たちの活動に対して、選手およびスタッフの方々から好評をいただいた。

○授業を通じたボランティア活動

・白鳥見守り隊への参加

令和 3 年 11 月 23 日、令和 3 年 12 月 11 日、令和 4 年 1 月 23 日（3 日間）

学生 20 名が参加

高崎キャンパスのほど近くを流れる鳥川河川敷において、飛来した白鳥の保護を目的にゴミ拾い等の環境整備を行った。河川敷のゴミは流れてきたもの、人が捨てたと思われるペットボトル、空き缶、紙ゴミなどかなりの量が見られた。12 月、1 月の日程では、飛来した白鳥が観察できた。白鳥への餌やりなどを行うことを次年度への課題としたい。